

# 顕 彰 状

林建華氏は1955年、中国山東省高密県に生まれ、1982年に中国北京大学化学学部を卒業し、学士号を取得した後、同大学大学院に進学した。1982年同大学より修士号（化学）、1986年同大学より博士号（化学）を授与された。同年、母校北京大学の教壇に立ち、マックス・プランク固体化学物理学研究所、アイオワ州立大学、エイムズ研究センターにて研究職を歴任し、1995年に北京大学化学分子エンジニアリング学院教授に嘱任された。その後、北京大学化学分子エンジニアリング学院学術院長、校長補佐、副校長兼教務部長、常務副校長兼教務部長、重慶大学および浙江大学の校長等を歴任。2015年北京大學校長に就任し、現在に至る。

林氏は、長期に亘って固体化学の研究に従事し、金属ホウ酸塩の新たな構造パターンに着目し、特に遷移金属酸化物の合成およびその構造の解明という分野では、中国における先駆者であり、その独創的な発見が海外でも高く評価され、米国の学術専門誌に140以上のSCI論文が収録されている。同氏の固体化学分野での数多くの業績に対し、1995年国家教育委員会科学技術二等賞、1997年国家卓越若手研究者支援助成、2009年国家級教育成果一等賞等、多数の賞が贈られている。さらに、学会活動にも積極的に携わり、中国結晶学会理事長、『無機化学』、『発光学報』、『プリズム学とプリズム分析』等、中国を代表する専門誌の論文審査委員・編集委員・編集長を歴任、固体化学研究分野をリードしてきた。また教育分野では、中国教育部科学技術専門部会副委員長、北京市科学協会副主席等を務めており、中国における科学教育の発展に大きく寄与してきた。林氏は学者として、中国固体化学の発展に力を注ぐ一方、中国高等教育学会教育専門委員会理事長などの要職において、中国の大学改革に大きく貢献するなど、行政面でもその手腕を遺憾なく発揮し、高く評価されている。

他方で、林氏は早稲田大学との学術・教育交流活動に対し深い関心を有し、北京大学副校長在任中、両大学の共同教育研究運営機構の設置、ダブル・ディグリー制度の開設等に、主導的な役割を果たしてきた。北京大學校長に就任後、頂新奨学金プログラム、百賢奨学金プログラム、全球創新發展研究院の新設等、これまで早稲田大学と北京大学の学術・教育交流活動に継続して協力し、両大学の友好関係及び信頼関係の増進に大きく寄与してきた。アジア太平洋地域における「知の共創」を目指す本学としては、北京大学は最重要パートナーであり、今後も一層の交流活動の進展が期待されている中で、このような中国を代表する学者であり、北京大學校長でもある林氏は本学の名誉博士の称号を贈呈することにふさわしいというべきである。

ここに早稲田大学は、林建華氏に名誉博士（Honorary Doctor of Science）の学位を贈ることとした。

学問の府に栄えあれ！

大学が栄誉を与えんとする者を讃えよ！

*(Vivat universitas scientiarum! Laudate quem universitas honorabit.)*

2018年3月24日